

平成 22 年 4 月 2 日

各 位

会 社 名 三菱マテリアル株式会社
 代 表 者 名 取締役社長 井手 明彦
 (コード番号 5711 東・大証第 1 部)
 問 合 せ 先 広報・IR 室 課長 鈴木信行
 (電 話 番 号 03-5252-5206)

業績予想の修正及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 11 月 5 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

また、平成 22 年 3 月期において見込まれる繰延税金資産の取り崩しについて、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) 業績予想数値の修正
 (連 結)

	売上高	営業利益	経常利益	当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,050,000	4,000	△27,000	△60,000	△47.31
今回修正予想 (B)	1,085,000	8,500	△15,000	△72,000	△56.62
増 減 額 (B-A)	35,000	4,500	12,000	△12,000	—
増 減 率 (%)	3.3%	112.5%	44.4%	△20.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	1,424,114	35,134	40,046	6,106	4.81

(個 別)

	売上高	営業利益	経常利益	当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	586,000	△13,000	△6,000	△30,000	△23.65
今回修正予想 (B)	600,000	△11,000	△3,000	△48,000	△37.75
増 減 額 (B-A)	14,000	2,000	3,000	△18,000	—
増 減 率 (%)	2.4%	15.4%	50.0%	△60.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	712,758	6,042	35,657	15,033	11.84

2. 修正の理由

当社グループを取り巻く事業環境は、銅価格が想定以上の水準で推移したことに加えて、自動車・半導体業界からの需要が回復基調にあることから、連結・個別共、売上高は増加し、営業利益、経常利益は改善する見通しにあります。一方、当期純利益につきましては、繰延税金資産の取り崩しの影響により税金費用が増加したことなどから、損失が拡大する見通しにあります。

前提条件

	前回発表予想	今回修正予想
銅価格	244 ¢ / lb	273 ¢ / lb
為替	92.7 円 / USD	92.5 円 / USD

3. 繰延税金資産の取り崩しについて

現在の不透明な事業環境等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産のうち、265 億円を取り崩すことといたしました。

4. 今後の施策

当社グループは、一昨年後半から続く世界同時不況を受けて策定した「総合経営対策」及びこれを徹底・深化させた追加対策に基づき、緊急的なコスト対策に加えて、経営資源の集中や低コスト体質への転換を図るべく、グループ一丸となって諸施策に取り組んでまいりました。その効果は確実に表れておりますものの、平成 22 年 3 月期は特に、上期において景気後退の影響を強く受け、また年度末において繰延税金資産を取り崩すことになった結果、予想を超える純損失を計上することとなりました。

今期（平成 23 年 3 月期）の業績見通しにつきましては、来る 5 月 12 日に公表予定であり、現在数値を取り纏めているところであります。なお、一部事業領域においては厳しい事業環境が続くと見込まれますものの、自動車・半導体業界における需要回復並びに諸施策の実行等により、前期（平成 22 年 3 月期）第 3 四半期以降、収益は大幅に改善してきており、この基調は今期も継続すると見込まれますことから、連結・個別共にすべての利益段階で確実に黒字を達成できるものと考えております。当社といたしましては、引き続きグループを挙げて「総合経営対策」に基づく事業構造・コスト構造改革をはじめとする諸施策を推進し、経営基盤の強化と確実な収益確保、そして将来の持続的成長に向け、全力を尽くしてまいります。

（注）上記の予想につきましては、発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後の様々な要因等により、予想と異なる結果となる可能性があります。

以 上